

# 「インドネシア団結」内閣の陣容(上)

## 調整相・官房長官・各省大臣(1)

スシロ・バンバン・ユドヨノ第6代大統領が「インドネシア団結内閣」(インドネシア語で「Kabinet Indonesia Bersatu」)と名付けた新内閣は、大統領選挙での貢献に配慮した論功行賞的な人選を極力抑え、有識者や専門家を多数登用する実務型の陣容になった。新閣僚36人の学歴・経歴、年齢、出身地・民族などをメガワティ前政権の閣僚構成とも比較しながら概観する。

### 筆頭閣僚はウィド調整相

ユドヨノ退役陸軍大將は大統領就任式に臨んだ後の10月20日夕刻に新内閣を発表した(閣僚宣誓式は21日)。

筆頭閣僚の政治・法務・治安担当調整相にウィド前国軍司令官(60)を起用。経済政策を統括する経済担当調整相にはアプリザル・バクリ前商工会議所会頭(57)、国民福祉担当調整相にはワヒド元大統領が創設者である民族覚醒党(PKB)のアルウィ・シハブ党首(58)を充てた。

3人の調整相が分野別に管掌する各省大臣(18人)と国務大臣(12人)、それに大臣相当職のユスリル・イフザ・マヘンドラ国家官房長官(48)、スディ・シララヒ内閣官房長官(55)、アブドゥル・ラフマン・サレ検事総長(63)の3人を加えて閣僚総数は36人。

これはメガワティ前政権の32人より4人多いが、その理由は新内閣では旧商工省を貿易省と工業省に分割し、公共事業省が新設されるなど省庁の一部再編があったからである。

女性閣僚はマリ・パンゲストゥ貿易相、シティ・ファディラ・スバリ保健相(54)ら4人で前政権(2人)より2人増加した。

また、メガワティ前政権閣僚で再任されたのはハッサン・ウィラユダ外相(56)、ハッタ・ラジャサ運輸相(50)ら5人で、アルウィ調整相、ユウォノ・スダルソ国防相(62)、バンバン・スディ

ブヨ教育相(52)の3人はメガワティ政権の前のワヒド政権で閣僚に就任したことがある。

【政治家】政党人とみなすことができる閣僚は民主党(Demokrat)副書記長のタウフィク・エフェンディ国家機関活性化担当国務相(63)、開発統一党(PPP)副書記長のバフティアル・カムシャ社会相(58)ら13人で、この数は前政権と同じである。閣僚ポストが4つ増えたことを考慮しても、新内閣になって特に非政党人が多くなったとはいえないことがわかる。

【軍人・警察】軍人・警察出身の閣僚は、ウィド調整相(退役海軍大將)、モフタル・マルフ内相(退役中將：62)、フレディ・ヌンベリ海洋・水産相(退役海軍中將：57)、タウフィク国家機関活性化担当国務相(退役准將)の4人で、いずれのポストも国家安全保障と何らかの関わりがある。メガワティ前政権でも軍人・警察出身閣僚は4人だった。

### 華人閣僚はマリ貿易相のみ

【年齢】最高齢閣僚は65歳のマフトゥ・バスユニ宗教相で、最年少閣僚は40歳のサイフラ・ユスフ後進地域開発促進担当国務相。年齢層では、40歳代が11人、50歳代が15人、60歳以上が10人となっている。

【人種・出身地】人種別では、ジャワ人が12人と最も多く、それに次ぐのがスンダ人(西部ジャワ山間地の出身者)の5人。マリ貿易相が唯一の華人閣僚である。

出身地別では、ジャカルタ首都特別州が4人、北スマトラ州2人、南スラウェシ州2人などとなっている。

紛争地域であるナングル・アチェ・ダルサラーム州からバフティアル社会相(再任)とソフヤン・ジャリル通信・情報担当国務相(51)の2人、パプア州からはフレディ海洋・水産相が入閣。

【宗教】全閣僚36人中の32人という圧倒的多数がイスラム教徒。エネギー・鉱業資源相のプルノモ・ユスギアントロ氏(53)とマリ貿易相がカトリック教徒、フレディ海洋・水産相がプロテスタント、バリ島出身のジェロ・ワチク観光・文化担当国務相(55)がヒンズー教徒である。

【学歴】博士号保持者はハミド・アワルディン法務・人権相(44)ら14人、教授称号の保持者はユウォノ国防相ら5人(博士号保持者とダブっている)で、新閣僚は過去の政権と比較してもかなりの「インテリ型」といえる。因みに、閣僚の母校では、インドネシア大学(UI)が最も多く8人。

【職歴】職歴では、政治家や軍人を除くと学者(政党活動に参加しているものは除く)がムティア・ファリダ・ハッタ女性エンパワーメント担当国務相(57)ら5人、官僚がユスフ・アンワル財務相(63)ら3人。

その他、実業家(政党役員等は除く)がスギアルト国営企業担当国務相(49)ら3人。変り種では、青年運動指導者出身のアドヤクサ・ダウルト青年・スポーツ担当国務相(41)がいる。

〔人物データ・ファイル〕  
調整相 (Coordinating Ministers)  
◎政治・法務・治安担当調整相

Coordinating Minister for Political, Legal and Security Affairs

ウィドド・アディスチプト  
(退役海軍大将)

Adm (ret) Widodo Adisutjipto



政治全般と安全保障政策を統括する筆頭閣僚。現役軍人時代は政治に関与しない職業軍人として定評があり、ワヒド政権からメガワティ政権前半にわたって国軍司令官を務めた。今度はユドヨノ大統領からテロ対策など治安面の重要懸案を委ねられることになった。※1999年10月成立のワヒド政権で閣僚待遇(当時の国軍司令官として入閣(国軍副司令官から昇格)したことがある(しかも、インドネシア国軍史上初めての海軍出身の国軍司令官だった)。この時は、陸軍の実戦部隊の掌握に苦労したもの、政党政治や陸軍内の派閥抗争から距離を置きながら、冷静さと忍耐をもって国軍の統率に務めた。

▼データ

【年齢】60歳(1944年8月1日生まれ)

【生地】中ジャワ州ボヨラリ

【人種】ジャワ人

【宗教】イスラム教

【学歴】1968：海軍士官学校卒、85：海軍参謀学校卒、91：国軍統合参謀大学卒

【経歴】海軍入隊(スマランの海軍基地勤務)、1986：艦長(3隻)を歴任、92：国軍統合参謀大学教官、95：東インドネシア艦隊司令官、97：海軍参謀次長、98：海軍参謀長、99：〔7月〕国軍副司令官、〔10月〕国軍司令官(ワヒド内閣一閣僚待遇)、2000：〔8月〕(ワヒド改造内閣)閣僚待遇から外れる、02：〔6月〕国軍を退役

2004：〔10月21日〕政治・法務・治安担当調整相

【趣味】無類のスポーツ愛好者

【家族】シリ・ムルニアティ(Sri Murniati)夫人との間に2男1女

【横顔】教師を父親とする家族の末っ子。家庭が貧しかったので「授業料が無料というだけの理由で士官学校に入学した」。

\* (02/03/15)の本欄に詳細データ有り。

◎経済担当調整相

Coordinating Minister for the Economy

アブリザル・バクリ

Aburizal Bakrie

経済政策の統括責任者。プリブミ(非華人系現地人)実業家の大物で前商工会議所会頭(現顧問)。ゴルカル党幹部(現在は造反グルー



プ)でもあり、大統領選挙では同党内の「予備選」に立候補したがウィラント退役大将(元国軍司令官)に敗れている。現職就任はプリブミ実業家の同志であるユスフ・カラ副大統領の強い推薦があったとみられる。ただ、外資や華人系資本が重要な位置を占めるインドネシア経済全体を把握し、適切なマクロ的政策を打ち出す実力があるかという点では疑問を呈する専門家も多い。

※バクリ・ブラザーズ社(スマトラのプリブミ企業)の3代目社長。1972年にインドネシア青年起業家機構を創設している。

▼データ

【年齢】58歳(1946年11月15日生まれ)

【生地】ジャカルタ首都特別州

【政党】ゴルカル党(Golkar：造反派)

【人種】アラブ系

【宗教】イスラム教

【学歴】バンドン工科大学(I T B)卒  
(電気工学)

【経歴】1991-95：東南アジア諸国連合(ASEAN)ビジネス・フォーラム会長(連続2期)、1994-2004：インドネシア商工会議所(Kadin)会頭(連続2期)、04：Kadin顧問  
2004：〔10月21日〕経済担当調整相

【横顔】(スハルト政権で国家開発計画担当国務相や経済・財政・産業開発担当調整相などを歴任し経済政策立案に多大な影響力を行使した)ギナンジャール・カルタサスマ氏との親交を利用し、石油公社プルタミナの利権に絡んでビジネスを拡大してきたという側面もある。同(アブリザル)氏同様の「ギナンジャール・ボーイズ」には、ファフミ・イドリス現労働・移民相、闘争民主党(PDI-P)幹部で石油会社MEDCO社長のアリフィン・パニゴロ氏などがいる。

◎国民福祉担当調整相

Coordinating Minister for People's Welfare

アルウィ・シハブ(教授・博士)

Prof Dr Alwi Abdulrahman Shihab



(大統領選決戦投票で実質的にユドヨノ支持に回った)民族覚醒党(PKB：国会52議席)の党首。現職就任は同党に対する論功行賞的な意味合いと、同(アルウィ)氏の宗教・民族の融和を尊重する穏健派イスラム知識人としての学識が買われたと見られる。しかし、新内

閣発足後、組閣などに不満を抱いたワヒド元大統領(PKB創設者)の意向もあり、PKBはユドヨノ政権の支持政党連合である「人民連合」から離脱し、野党のゴルカル党と闘争民主党(PDI-P)が組む「国民連合」に鞍替えしてしまった。そのため、同氏の立場は複雑なものになっている。

※エジプトでイスラム哲学の博士号を取得したあと、米ハーバード大学客員教授(イスラム研究)を努めるなど滞米歴が長い。「イスラム学の王子」の異名もある一方で、比較宗教学に造詣が深く宗教多元主義の信奉者である点でワヒド元大統領に似ている。元大統領の側近中の側近で、ワヒド政権では外相を務めた。

▼データ

【年齢】58歳(1946年8月19日生まれ)

【生地】南スラウェシ州ラッパン

【政党】民族覚醒党(PKB)：党首

【人種】アラブ系

【宗教】イスラム教

【学歴】1966：(エジプト・カイロ)アルアザル大学卒、68：同大学で修士号(イスラム神学)取得、84：(マカッサル)アラウディン国立イスラム研究所で学ぶ、90：(カイロ)アンシャムス大学で博士号(イスラム哲学)取得、95：米テンブル大学で博士号(比較宗教学)取得

【経歴】1970：(渡米)ニューヨークでレストランのウェーターなどをして働き学資を稼いだ。留学を断念し一旦帰国(以後、15年間実業家として活動)、93：米テンブル大学宗教学部助手、95：米ハーバード大学研究員・講師、のち神学部客員教授、98：〔7月〕PKB結成に伴い副党首、99：国会議員、〔10月〕外相、2001：〔7月〕(メガワティ政権成立に伴い)外相解任、のちPKB党首に就任

2004：〔10月21日〕国民福祉担当調整相

【家族】アシュラフ・シャハブ(Ashraf Shahab)夫人との間に3子

【横顔】生家はアラブ系で12人兄弟の6番目。父親の故アブドゥルラーマン・シハブ氏は商業を営む一方で、コーラン解釈学の教授でもあり、マカッサルのインドネシア・ムスリム大学(UMI)の創立者の1人だった。兄のクライシュ(Prof Dr M. Quraish Shihab)氏は短命に終わったスハルト第7次政権で宗教相に就任している。

\* (99/12/01)の本欄に詳細データ有り。

大臣相当職 (Officials with Ministerial Rank)

●国家官房長官 State Secretary

ユスリル・イフザ・マヘンドラ

(教授・博士)

Prof Dr Yusril Ihza Mahendra



(大統領選挙で民主党などとともに第1回投票からユドヨノ氏を擁立した)イスラム主義政党・月星党(PBB:国会11議席)の党首。現職は調整相にも匹敵する要職に位置付けられており、歴代政権で閣僚を務めた経験を生かすことが期待されている。ユドヨノ大統領は一貫して自らを支えた政党の党首をそれなりのポストで遇したともいえる。

※スハルト政権時代は大統領「スピーチライター」を務め、ワヒド、メガワティ両政権で司法・人権相に就任。歴代大統領に学識が買われたことも事実だが、政治の潮流に乗るのが上手いという側面もある。

## ▼データ

【年齢】48歳(1956年2月5日生まれ)  
 【生地】南スマトラ州プリトゥン(現バンカ・プリトゥン群島州)  
 【政党】月星党(PBB):党首  
 【人種】ムラユ人  
 【宗教】イスラム教  
 【学歴】インドネシア大学卒(行政学・イスラム法)、(インド)パンジャブ大学に留学、マレーシア・サインス大学で法学博士号取得  
 【経歴】1984:インドネシア大学法学部講師(のちに教授)、スハルト政権国家官房スタッフ(大統領「スピーチライター」)兼任、99:総選挙を前にPBBを結成し党首に就任、[10月](ワヒド内閣)司法・人権相、01:[4月]ワヒド大統領に辞任を要求したため解任、[8月](メガワティ内閣)司法・人権相に再任  
 2004:[10月21日](ユドヨノ内閣)国家官房長官

【横顔】PBBは1950年代におけるマシュミ党の精神を受け継ぐイスラム至上主義政党。しかし、「人民連合」(ユドヨノ政権の支持政党連合)に属す福祉正義党(PKS:国会45議席)の若手指導部とは同じくイスラム主義を掲げていてもソリが合わない。

## ●内閣官房長官 Cabinet Secretary

スディ・シララヒ(退役中將)  
 Lt Gen(ret) Sudi Silalahi



メガワティ「相互扶助」内閣でユドヨノ政治・治安担当調整相(当時:現大統領)の秘書官を務めたこともあり、大統領が信頼する「首席補佐官」的存在である。現職は目立たないが内閣の要であり、新内閣では実質的に調整相相当の権限があるとみてよい。

## ▼データ

【年齢】55歳(1949年7月13日生まれ)  
 【生地】北スマトラ州バマタンシアンタル  
 【人種】バタック人

【宗教】イスラム教

【学歴】1972:国軍士官学校(Akabri)卒

【経歴】1996:国軍社会・政治担当参謀補佐(-97)、98:第10軍管区(ジャカルタ)参謀長、[10月]国軍社会・政治担当参謀、99:第5軍管区(東ジャワ)司令官、01:[10月](メガワティ内閣)政治・治安担当調整相秘書官(-04:[4月])  
 2004:[10月21日](ユドヨノ内閣)内閣官房長官

## ●検事総長 Attorney General

アブドゥル・ラフマン・サレ  
 Abdul Rahman Saleh

新聞記者から人権NGO幹部、法律事務所開業などを経て最高裁判事。今年2月、 Golkar党のアクバル・タンジュン党首の公金横領事件を巡る最高裁での上告審判決で、5人の判事のうちのただ1人、下級裁判所の有罪判決を支持する主張を行った。そのため、地元メディアで一躍有名になった(結局、同党首には最高裁で無罪判決が出た)。そうした権力に屈しない姿勢が評価されての現職に起用されたのだろう。

## ▼データ

【年齢】63歳(1941年4月1日生まれ)  
 【生地】中ジャワ州ペカロンガン  
 【政党】月星党(PBB)  
 【人種】ジャワ人  
 【宗教】イスラム教  
 【学歴】1967:(ジョクジャカルタ)ガジャマダ大学法学部卒、95:インドネシア大学から修士号取得  
 【経歴】1968:日刊紙「ヌサンタラ」記者、73:同紙を辞しジャカルタ法律援護財団理事長に就任。アブドゥル・ラフマン・サレトウティ・フタガルン(Tuty Hutagalung)法律事務所代表、のち最高裁判事  
 2004:[10月21日]検事総長  
 【横顔】PBB党首のユスリル国家官房長官に近く、PBB副党首だったこともある。

## 各省大臣(Ministers)

### ■内相 Minister of Home Affairs

モハマド・マアルフ(退役中將)  
 Lt Gen(ret) Mochamad Ma'ruf

(大統領選挙でユドヨノ氏の支持母体になった)民主党(Demokrat:国会56議席)幹部で、選対会議議長としてユドヨノ大統領誕生に大きな貢献を果たした。元駐ベトナム大使。

## ▼データ

【年齢】62歳(1942年9月20日生まれ)  
 【生地】中ジャワ州テガル  
 【人種】ジャワ人  
 【宗教】イスラム教  
 【学歴】1962:陸軍士官学校(AMN)卒、(ジャカルタ)オープン大学から経営学学位取得  
 【経歴】1990:第9軍管区(バリ・ヌサトゥンガラ)参謀長、91:第4軍管区(中ジャワ)参謀長、92:陸軍士官学校長(マゲラン)、93:国

軍社会・政治参謀、95:国軍社会・政治参謀長、1996:駐ベトナム大使(-2000)、現在:民主党(Demokrat)中央執行委員  
 2004:[10月21日]内相

### ■外相 Minister of Foreign Affairs

ハッサン・ウィラユダ(博士)  
 Dr Hassan Wirajuda

メガワティ前政権で外相を務めたが、新政権でも再任された。元々党派的な背景はない外務官僚出身であり、再任は外交政策の一貫性を維持する意味もある。

## ▼データ

【年齢】56歳(1948年7月9日生まれ)  
 【生地】西ジャワ州タンゲラン  
 【人種】アラブ系  
 【宗教】イスラム教  
 【学歴】1971:インドネシア大学法学部卒、84:米タフツ大学で修士号(法学・外交)取得、85:米ハーバード大学で修士号(法学)取得、87:米ヴァージニア法律大学校で博士号取得  
 【経歴】1974:外務省入省、89:駐ジュネーブ代表部公使参事官(政務)、93:外務省国際機関局長、97:駐エジプト大使、98:駐ジュネーブ代表部大使、2000:[7月]外務省政務総局長、01:[8月](メガワティ内閣)外相  
 2004:[10月21日](ユドヨノ内閣)外相(再任)  
 【趣味】読書  
 【家族】夫人と4子  
 【横顔】「生まれつきの外交官」といわれ、メガワティ内閣で外相に就任した時は外務省の「ライバル」たちでさえ祝福した。外務省政務総局長時代は、ナングル・アチェ・ダルサラーム州の独立派組織「自由アチェ運動(GAM)」との和平交渉で政府代表団員を務め、GAM側からの信頼も厚いものがあった。また、1990年には、インドネシア国家人権委員会の設立に参画、93-97年まで同委員会の顧問に就任している。  
 \*令嬢(ニックネームはアストリッド)は日本(九州)の大学に留学した経験がある。  
 \*〈訪日歴〉2001年9月、02年8月、12月(外務省賓客)、03年6月、12月  
 \*(03/01/01)の本欄に詳細データ有り。

### ■国防相 Minister of Defense

ユウォノ・スダルスノ(博士)  
 Dr Juwono Sudarsono



駐英大使から現職に就任。1999年10月のワヒド「国民統一内閣」でスカルノ政権時代以来となるシベリアン国防相に抜擢され

ており、今回は返り咲きとなった。国軍改革を軍事専門の学者の立場から真摯に提言してきた点がユドヨノ大統領の信頼を得たとみられる。

#### ▼データ

【年齢】62歳(1942年3月5日生まれ)  
【生地】西ジャワ州チアミス  
【人種】スンダ人  
【宗教】イスラム教  
【学歴】1965：インドネシア大学卒、オランダ・ハーグで国際法の学位取得、70：米カリフォルニア大学バークレー校で修士号取得、78：ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで政治学博士号取得  
【経歴】1965：インドネシア大学教官、89：同大学政治学教授、95：国防研究所(Lemhanas)副総裁、98：〔3月〕(第7次スハルト開発内閣)環境担当国務相、〔5月〕(ハビビ改革開発内閣)教育・文化相、99：〔10月〕(ワヒド国民統一内閣)国防相、2000：〔8月〕国防相解任、01：(メガワティ内閣)駐英大使  
2004：〔10月21日〕(ユドヨノ内閣)国防相  
【家族】プリハラム・アスティナ(Priharum Astinah)夫人との間に2男  
【横顔】スハルト大統領(当時)に請われて国軍の「シンクタンク」であるLemhanasの副総裁を3年間務め、ASEAN各国の安全保障担当者と交流した経験がある。父親が外交官だったという家庭環境もあり、外交能力にも長けている。国防省のトップに就けるシビリアンとしては最適の人物との評価がある。  
\*(00/05/01)の本欄に詳細データ有り。

#### ■司法・人権相

Minister of Justice and Human Rights  
ハミド・アワルディン(博士)  
Dr Hamid Awaluddin  
ユスフ・カラ副大統領と同じ南スラウェシ州の出身であり、同副大統領人脈の1人。

#### ▼データ

【年齢】42歳(1962年10月5日生まれ)  
【生地】南スラウェシ州パレパレ  
【人種】プギス人  
【宗教】イスラム教  
【学歴】(マカッサル)ハサヌディン大学(Unhas)卒、90：米アメリカン大学から法学修士号取得、91：同大学から文学修士号取得、98：同大学から博士号取得  
【経歴】(学生時代)マカッサルでイスラム団体ムハマディアの学生組織やイスラム学生会協会(HMI)の活動家。総選挙委員会(KPU)委員(購買担当)。  
2004：〔10月21日〕司法・人権相  
【家族】アンディ(Andi Marcelya)夫人

#### ■財務相 Minister of Finance

ユスフ・アンワル  
Jusuf Anwar  
財務官僚出身でアジア開発銀行(ADB)理事を務めたこともある。手堅い実務型人事。

#### ▼データ

【年齢】63歳(1941年1月2日生まれ)  
【生地】西ジャワ州タシクマラヤ  
【人種】スンダ人  
【宗教】イスラム教  
【学歴】1978：米ヴァンダービルト大学で経済学修士号取得  
【経歴】財務省財務教育訓練センター所長、同省事務次官、1998：証券監督庁(Bapepam)長官、2000：(マニラ)アジア開発銀行(ADB)理事  
2004：〔10月21日〕財務相  
【家族】シティ・ラストリジャ(Siti Lastriyah)夫人  
【横顔】財政だけでなく、法律の専門家でもあり司法・人権省関連の役職を兼務したこともある。

#### ■エネルギー・鉱業資源相

Minister of Energy and Mineral Resources  
プルノモ・ユスギアントロ(博士)  
Dr Purnomo Yusgiantoro  
石油輸出機構(OPEC)現議長。エネルギー・鉱業資源相留任で年末までのOPEC議長職を維持することになった。現職には、ワヒド改造内閣発足時に「ゴルカル枠」で就いたが、鉱物資源分野ではインドネシアの第一人者ということもあり、メガワティ、ユドヨノ両内閣にも留まることになった。

#### ▼データ

【年齢】53歳(1951年6月16日生まれ)  
【生地】東ジャワ州スマラン  
【人種】ジャワ人  
【宗教】カトリック  
【学歴】1974：バンドン工科大学(ITB)石油工学部卒、88：米コロラド大学鉱業学部で経済学博士号取得  
【経歴】米コロラド大学講師を経て、帰国後は石油公社ブルタミナに勤務。1990：世界銀行・アジア開発銀行(ADB)コンサルタント、93：(第6次スハルト内閣)鉱業相顧問、98：国防研究所(Lemhanas)副総裁。この間、OPECインドネシア代表に就任(現在はOPEC議長)。2000：〔8月〕(ワヒド改造内閣)エネルギー・鉱業資源相、01：〔8月〕(メガワティ内閣)エネルギー・鉱業資源相に再任  
2004：〔10月21日〕(ユドヨノ内閣)エネルギー・鉱業資源相に再任  
【家族】スリ・ムルニアティ(Sri Murniati)夫人  
【横顔】Lemhanas副総裁を務めたこともあり、鉱物資源の戦略的な重要性に関する認識が深い。軍人出身のユドヨノ大統領が同(プルノモ)氏を信頼する理由はこの点にもある。

#### ■工業相 Minister of Industry

アンドウン・ニティミハルジャ(博士)  
Dr Andung Nitimihardja  
国営企業担当国務相府の財政専門官から国営電力会社などの経営トップを経て現職。

#### ▼データ

【年齢】54歳(1950年4月4日生まれ)  
【生地】西ジャワ州バンドン  
【人種】スンダ人  
【宗教】イスラム教  
【学歴】ボゴール農業大学(IPB)卒(工学士)、米ピッツバーグ大学で経済学修士号(社会開発)取得、同大学で博士号(開発学)取得  
【経歴】2000：投資調整庁副長官(事業開発)(-01)、03：国営企業担当国務相府投資・地方自治局専門官、〔6月〕国営電力会社PT PLN会長、PT RNI(ラジャワリ・ヌサンタラ・インドネシア)、PTアスランシ・ジャサ・ラハルジャ各理事  
2004：〔10月21日〕工業相

#### ■貿易相 Minister of Trade

マリ・バンゲストゥ(博士)  
Dr Marie Elka Pangestu



インドネシアの有力な民間シンクタンク、戦略国際問題研究所(CSIS)の理事長を務めたことのあるエコノミスト。世界銀行、国際通貨基金(IMF)、アジア開発銀行(ADB)関連の研究活動も多く、日本にも知己が多い。最近是中国の上海を拠点にASEANと中国の関係促進に力を入れてきた。ユドヨノ内閣でただ1人の華人閣僚。

#### ▼データ

【年齢】48歳(1956年10月23日生まれ)  
【生地】ジャカルタ首都特別州  
【人種】華人(華語名は馮慧蘭)  
【宗教】カトリック  
【学歴】1980：(キャンベラ)オーストラリア国立大学で修士号(国際貿易・経済開発)取得、86：米カリフォルニア大学で博士号(国際貿易・財政金融経済)取得  
【経歴】インドネシア大学(UI)経済学部教官、戦略国際問題研究所(CSIS)理事長  
2004：〔10月21日〕貿易相  
【横顔】就任早々、ASEANと中国の自由貿易地域構想実現への意欲を表明した。しかし、華人エコノミストにありがちな「親華僑、親中国、親シンガポール」経済政策への傾斜には不安を抱く向きも少なくない。また、今後ユスフ・カラ副大統領に近いプリブミ派の閣僚と政策上の対立を生む可能性も高い。

〈お断り〉残りの各省大臣と国務大臣の〔人物データ・ファイル〕は次号に掲載する予定です。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)